

藻場・干潟の保全の取り組みを行うにあたり、参考となる資料一覧です。保全の取り組みを計画・実施される際にご参考下さい。

藻場・干潟の保全の取り組みに参考となる資料一覧

(年代順)

参考資料名	発行元 発行年	概 要
自然環境保全基礎調査	環境庁 藻場・干潟の調査年は右記の通り	一般に「緑の国勢調査」と呼ばれ、陸域、陸水域、海域の各々の領域について国土全体の状況を調査。このうち藻場・干潟関連は第2回調査(1978)、第4回調査(1989～1990)、第5回調査(1997～2001)、第6・7回調査(2002～2006)に実施。
海の自然再生ハンドブックーその計画・技術・実践ー	監修：国土交通省港湾局 著：海の自然再生ワーキング・グループ 企画：財団法人港湾空間高度化環境研究センター 2003年11月	自然再生に関する調査及び再生手法の技術などに関する最新の知見をマニュアル形式で取りまとめ、「海」サイドから自然再生事業の取り組みを総合的に解説した実務ハンドブック。 全4巻で構成され、「第1巻 総論編」では海の自然再生と展開、自然再生におけるパートナーシップ 他、「第2巻 干潟編」では干潟造成の計画、維持管理 他、「第3巻 藻場編」では藻場の環境条件、モニタリング調査 他、「第4巻 サンゴ礁編」ではサンゴ礁について、サンゴ礁の保全・創造・利用手法 他について、図表・事例写真をふんだんに使い、専門家が分かり易く解説。
モニタリングサイト1000	環境省 藻場・干潟：2008年～ シギ・チドリ：2004年～	日本列島の多様な生態系のそれぞれについて、環境省では全国にわたって1000ヶ所程度のモニタリングサイトを設置し、基礎的な環境情報の収集を長期にわたって継続して、日本の自然環境の質的・量的な劣化を早期に把握します。このうち瀬戸内海の藻場は2ヶ所、アマモ場1ヶ所、干潟28ヶ所(汽・沖・干潟類27ヶ所、干潟1ヶ所)のサイトで実施中。
干潟造成技術マニュアル(Ver.1) ～成功事例に学ぶ干潟造成技術～	国土交通省中国地方整備局 広島港湾空港技術調査事務所 2006年3月	成功事例として評価されている造成干潟の現地調査等に基づき、自然に近い生物生息機能を発揮するための干潟基盤の物理的的必要条件を明らかにし、今後、干潟を造成する場合に事業主体あるいは技術者がどのような情報を整理・解析し、照査するべきかその参考としてとりまとめたもの。 マニュアルの概要(目的、構成、対象範囲と留意点)、干潟の特徴と機能、成功事例の機能発揮要因、長期安定的に機能発揮する造成干潟の定義、成功事例の機能発揮要因に基づく干潟の設計手法、干潟設計手法のケーススタディ等で構成。
沿岸域の環境・生態系保全活動の進め方	(株)水土舎 (水産庁委託事業) 2007年3月	これまでの事例調査やモデル的な試行を踏まえて、平成19、20年度に予定されている環境・生態系保全活動支援調査・実証事業を実施するにあたっての活動の手引きとする目的で作成したもの。 第1章は保全活動の対象資源である藻場、干潟、サンゴ礁の現状と公益的機能を紹介し、今なぜこれらの環境・生態系を保存する必要があるのか。第2章は全国各地で取り組まれている保全活動の内容を紹介。第3～5章は、藻場、干潟、サンゴ礁における保全活動の具体的内容を紹介。第6章では実際に活動するに当たっての手順を解説。
アマモ類の自然再生ガイドライン	水産庁・マリノフォーラム21. 2007年3月	活動推進の普及指導者として自治体水産担当職員、水産研究員、普及指導員等を対象に、アマモ類の遺伝的な多様性に関する情報も含んだ最新の専門的な情報から、NPO法人等による全国でのアマモ場再生と利活用事例についての解析結果を含んだ「ガイドライン」。別途この概要を一般の漁業者や市民向けに分かりやすく表記した「ハンドブック」がある。 アマモ場再生についての総論、協働による進め方、再生検討、再生計画、再生実施、活用・管理等運営方法等で構成。

参考資料名	発行元 発行年	概 要
順応的管理による海辺の自然再生	国土交通省港湾局監修 海の自然再生ワーキンググループ著 2007年3月	海辺の自然再生事業について順応的管理の考え方、干潟・藻場・サンゴ礁といった場としての自然再生を行う際の順応的管理手法、鳥類・魚類・貝類等の生物の保全・再生を行う際の順応的管理手法についてとりまとめたものであり、海外の事業を含め、最新で実践的な知見、具体的な事例を解説、紹介。 海辺の自然再生総論、順応的管理の考え方、場の自然再生における順応的管理の基本手順、順応的管理の実際（干潟・海浜・浅場、藻場、サンゴ礁）、生物の保全・再生における順応的管理の基本手順、順応的管理の実際（鳥類、魚類、海藻等各生物群毎）、事例集で構成。
干潟生産力改善のためのガイドライン	水産庁 2008年2月	平成17年度より始められた「藻場・干潟生産力等改善モデル委託事業（干潟関係）」の一環として作成されたもので、千差万別の干潟に対応できるよう、基礎から応用までの情報をできるかぎり網羅。専門的な知見についても具体的な事例を取り入れわかりやすく解説。 干潟の基礎、干潟環境と二枚貝の状態把握方法、状態診断指針、具体的対策手法、取組事例等で構成。
環境・生態系保全活動の手引き	水産庁 2009年3月	沿岸域の環境生態系の適切な保全管理の進め方について、活動のねらい、活動の内容、配慮すべき事項等参考となる情報等を記載。 対象資源の定義、計画づくり、モニタリング、藻場・干潟・ヨシ帯・サンゴ礁の保全活動の具体的な技術的解説等で構成。
藻場資源消滅防止対策ガイドライン	水産庁 2009年3月	漁業上の価値を有する藻場の消滅を防止、あるいは予防するにあたって、順応的管理手法を取り入れた手法による取り組みの進め方、および近年の既往文献や民間の技術、さらには本事業で行った実証試験の知見を整理することで、実務者が実施する際のヒントやアイデアとなるように取りまとめたもの。 課題と問題点、漁業者の藻場との関わり、合意形成の進め方等の防止対策の基本的な考え方、藻場の基礎、再生・創造の進め方、対策技術、防止技術の事例等で構成。
里海ネット	環境省 2010年7月～	里海概念や重要性、里海づくりに関する情報を発信する環境省のWebサイト。 「里海とは」、「里海と生物多様性」、「里海の現状」、「里海づくりを目指して」、「里海づくりに求められること」など、里海に関する基本的な情報や「里海づくりの7つのタイプ」、「里海創生支援モデル事業の紹介」、「実践事例の紹介」、「里海づくりのマナー」など、里海づくり活動に関する情報等を紹介。
里海づくりの手引書	環境省 2011年3月	これから里海づくりをはじめよう、あるいは、里海づくりを強化しようとする際に活用いただけるよう、里海の考え方など基本的な情報の他、里海づくりを始める際の、事前準備、里海創生計画の策定、活動の評価・見直しの手順に沿って情報や留意事項を整理。
生物共生型港湾構造物の整備・維持管理に関するガイドライン	国土交通省港湾局 2014年7月	行政側だけでなく民間の事業者が生物共生型港湾構造物を検討する際にも参考にできる技術資料。 生物共生型港湾構造物の整備に向けて、利用段階・整備段階でのメリット、定義と分類、効果と費用、計画・設計・維持管理の実際とその関連事例を紹介。
藻場・干潟ビジョン	水産庁 2016年1月	学識経験者や行政担当者等により構成される「藻場・干潟ビジョン検討会」の結果を受け、実効性のある効率的な藻場・干潟の保全・創造に向けた4つの視点と対策方策を示した基本的な方針を記載。
瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査	環境省 調査年:2015～2017年	瀬戸内海における藻場・干潟の保全・再生・創出等を図るため、衛星画像の解析手法を用いた藻場・干潟の分布状況を調査。